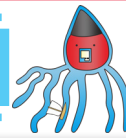




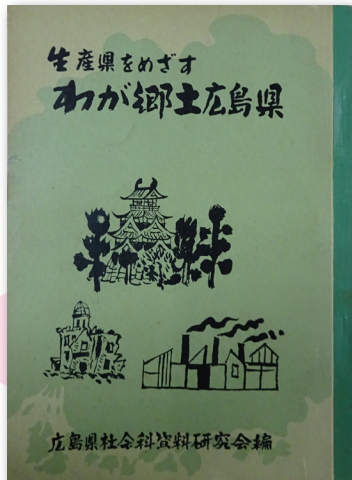
# ひろしま郷土資料館だより

NO. 104

**企画展 大解剖！副読本『わたしたちの広島』**  
 ーくらしのうつりかわりを学ぼうー  
 令和4年(2022)4月16日(土)～7月3日(日)



企画展のナビゲータ  
 として活躍した  
 広島デルタの妖精  
 「でるとこ(初代)」



① 生産県をめざす わが郷土広島県  
 昭和32年(1957)発行  
 広島県内で初めての社会科副読本  
 広島市教育センター蔵



② きょうど ひろしま  
 昭和34年(1959)発行  
 ①から②へ書名が変わる  
 広島市教育センター蔵



③ わたしたちの広島 3・4年  
 令和4年(2022)発行  
 平成27年度より、この書名となる  
 写真提供：中国書店

昭和32年(1957)の発行以来今年で65年、広島市内の小学校3・4年生が学んでいる「社会科副読本」を知っていますか？そもそも学校教育の方針は、文部科学省(旧文部省)告示の学習指導要領によって示され、教科書もこれに従っています。このうち小学校3・4年生は、自分たちの住んでいる身近な地域(都道府縣市町村)の自然や地形の特色、土地利用、公共施設、産業、交通、生活のうつり変わりなどの社会的事象を観察、調査、発表し、地域社会への自覚を学ぶ内容となっています。

しかし、検定教科書だけでは地域学習を補えないため、各自治体で社会科副読本が発行されています。広島県では昭和32年(1957)発行の『生産県をめざす わが郷土広島県』に始まり、その後、昭和35年に広島市独自に『わたしたちの広島市』を発行、翌年から児童に無償配布されました。発行から今年で62年、毎年広島市の小学校教育研究会社会科部会の先生たちが執筆・編集し、本のサイズや書名を少しずつ変えながら、小学校3・4年生の地域学習の教材として使われています。

本展は、現在の社会科副読本『わたしたちの広島』で取り上げられている広島市の地形(干拓、埋立、太田川放水路の改修工事)、人々の生活(広島城と城下町、交通やゴミ処理、災害など)のうつり変わり、戦後復興などについて紹介し、「へえ、私たちの住む広島市ってこんなまちなんじゃ」と世代を超えて広島市の魅力を共有し、学び楽しんでもらう機会としました。次頁では、本展示内容のうち、広島市のあゆみについて一部、紹介をしていきます。

## 目次

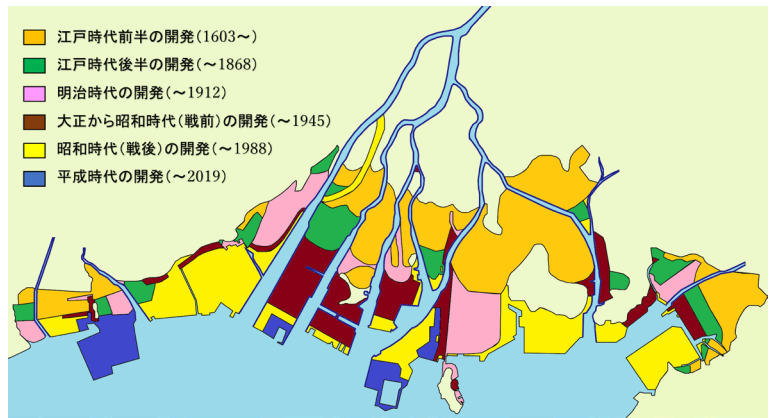
|       |                         |     |                    |
|-------|-------------------------|-----|--------------------|
| P 1-2 | 企画展「大解剖！副読本『わたしたちの広島』」  | P 7 | 博物館実習・インターゾップ・活動報告 |
| P 3   | フィールドワーク「平和大通り 発見今昔めぐり」 | P 8 | 活動報告・園芸部より         |
| P 4   | 夏休み おばけの博物館             |     |                    |
| P 5   | つくも神作家・<br>八木一文さんインタビュー |     |                    |
| P 6   | 被爆建物案内・おすすめ収蔵資料         |     |                    |

令和4年度 後期展示紹介  
 郷土資料館の新キャラクター  
 広島デルタの妖精「でるとこ」(二代目)  
 太田川放水路改修工事前の初代(川が7本)と  
 工事後の二代目(川が6本)がいます。  
 チャームポイントは、広島城の水堀のお口です。



## ◆わたしたちのまち みんなのまち－広島市のうつりかわり－◆

広島市には、山に囲まれた狭い土地や、太田川・八幡川・瀬野川沿いに拓けた土地、広島湾に面した海沿いや島などの地域があり、面積は906.69平方キロメートル（令和3年度）あります。広島市中心部は、太田川が運んだ土砂が河口に堆積した三角州（デルタ）にあります。戦国武将・毛利輝元が、海・川への利便性が良い三角州に、天正17年



広島市 海に向けて広がる新開地の歴史

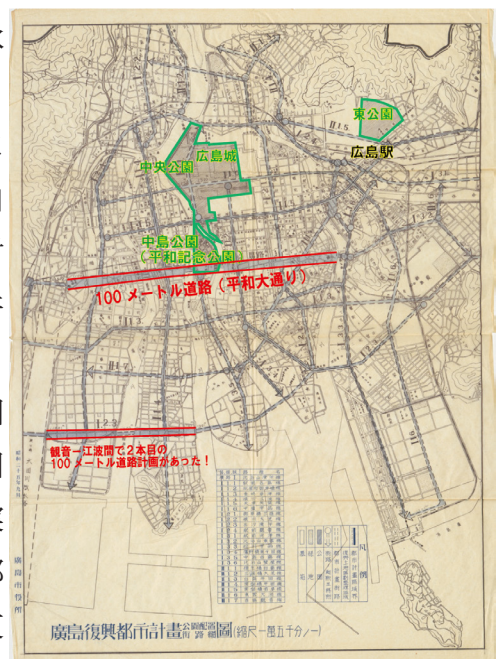
(1589)から広島城を築き、城下町広島が始まりました。その後、毛利輝元から、江戸時代には福島正則、浅野氏(12代)と広島城主が代わるなかで町が整えられていきました。さらには、海へ向け堤防を築いて干拓し、新開地を造りました。こうして島だった仁保島(現南区)、江波島(現中区)は地続きとなり、私たちの身近な山、「黄金山」、「江波山」となりました。

明治時代になると広島には広島県庁や軍事施設が置かれ、中国地方の主要都市として発展しました。明治22年(1889)には大きな船も利用できる宇品港(現広島港)が完成し、海の玄関となりました。そして同年、市制・町村制により広島市が誕生しました。広島市スタート時の人口はわずか8万3,387人でしたが、昭和46年(1971)から周辺13の町村との合併をすすめ、昭和55年(1980)4月には全国で10番目の政令指定都市となりました。

## ◆広島の人たちはどのようなまちを目指したか－広島の復興－◆

広島市は、原爆によって建物や交通機関、通信施設、上下水道などが焼失、破壊されました。

昭和21年(1946)9月、全国115の戦災復興都市の1つに広島市が指定され、道路、公園緑地などの「広島復興都市計画」が作られました。しかし市民が復興に立ち上がるものの、財源不足によりなかなか計画は進みませんでした。そこで浜井信三市長や市議会などの地元関係者が、国や国会に働きかけ、昭和24年(1949)に、憲法第65条による特定の地方公共団体に適用される法律として「広島平和記念都市建設法」が国会で可決されました。この法律の目的は「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設すること」であり、国からの特別な補助金・支援により、復興への道を歩み始めました。



戦後復興事業による  
広島復興都市計画(公園配置・街路網)図(一部加筆)  
昭和25年(1950)9月 当館蔵

### ●広島平和記念都市建設計画の内容(一部)

- ・原爆の爆心地に近い中島地区に公園を計画し、平和記念公園とする
- ・広島城跡を含む基町地区を中央公園として計画し、その他市内にたくさんの公園を作る
- ・広島市の中央を東西に貫く100m道路を軸として、おもな道路は碁盤目状に計画する

会期中の来館者数：1,468名 (山縣紀子)

企画展「大解剖！副読本『わたしたちの広島』～くらしのうつりかわりを学ぼう～」関連イベント

## フィールドワーク「平和大通り 発見今昔めぐり」

令和4年6月4日（土）10：00～12：00

社会科副読本『わたしたちの広島』で学ぶ単元「平和大通りのひみつ」に着目し、「広島平和記念都市建設計画」の中核を成す、広幅員道路「平和大通り（100メートル道路）」についてのフィールドワークを行い、広島の新開の歴史と平和大通りの成立に関わる400有余年の痕跡を案内しました。

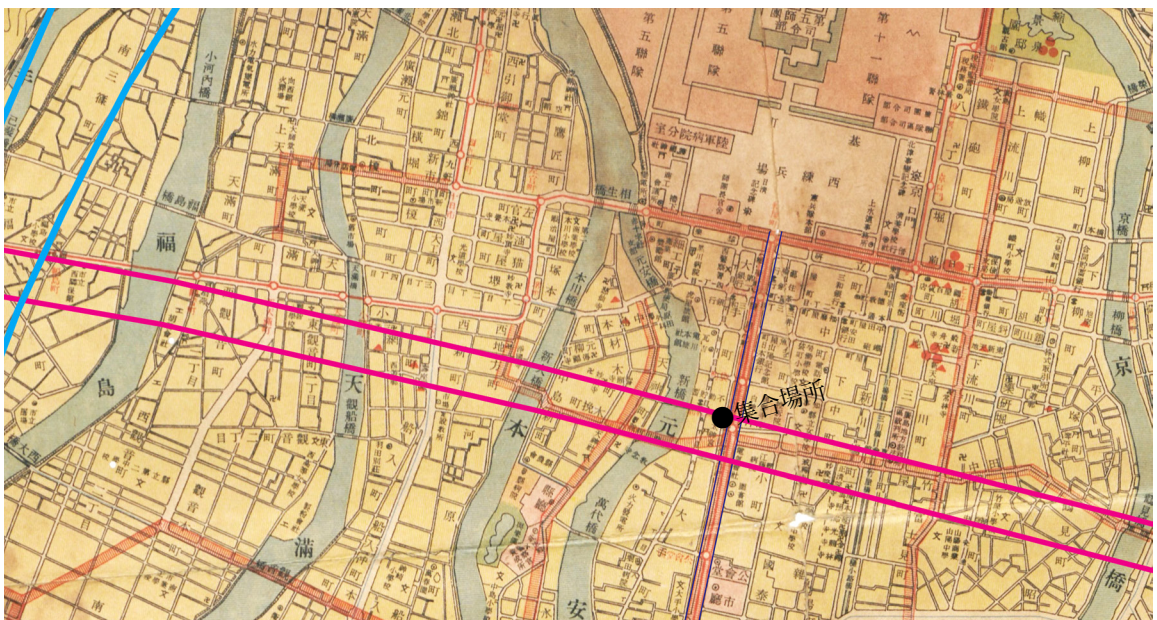
平和大通りとは、京橋川の鶴見橋から太田川放水路に架かる新己斐橋までの、東西約4kmにわたる道路です。もともとは太平洋戦争末期、空襲による火災の延焼を防ぐため、あらかじめ建物を取り壊した空地「放火帯」であり、戦後、その横幅を拡げて平和大通りが完成しました。

イベントでは本当に幅100メートルあるのかを実証するため、参加者は歩幅×歩数、スタッフはロードメジャーを用いて白神社東交差点の北端から南端へと、慎重に計って行きました。すると参加者もスタッフもまさにほぼ100メートルの測定結果となり大興奮！当時、工事で整備に携わった方たちに畏敬の念を抱きました。

さて案内をしたルートは次の通りです。※西暦年省略

NHK広島放送局前に集合し、①西堂川（運河）跡（現広島電鉄宇品線）・西堂橋跡（現白神社前交差点）→②白神社の岩礁（江戸時代以前の海岸線）→③国泰寺・愛宕池の岩礁、被爆樹木→④メタセコイアの供木樹木（昭和32・33年に県内外からの寄付による樹木）→⑤広島控訴院跡の碑→⑥戒善寺→⑦妙慶院→⑧福島正則が禅宗寺院を集結させた東寺町（現じぞう通り・小町付近）→⑨平田屋川（竹屋川）跡・竹屋橋跡（現並木通り入口交差点）→⑩スギ・カシ・クスノキの供木樹木→⑪県立広島第一高等女学校跡→⑫ラ・パンセ像（昭和28年、花壇整備中に建立された裸婦像）→⑬桜川（広島城外堀から国泰寺村への水路）跡→⑭平和大橋（元白神四丁目渡し場跡に明治7年初代新橋完成。現在の橋は昭和27年、イサム・ノグチ作）→⑮市立高等女学校原爆慰霊碑→⑯オリンピック東京大会記念月桂樹（昭和39年植樹）→⑰天神坊（元和5年入封の際、広島城主・浅野長晟が下船し休憩をしたと伝わる神社）→⑱ヒマラヤスギの供木樹木→⑲西平和大橋（元本川渡し場跡に明治6年に初代新大橋完成。現在の橋は昭和27年、イサム・ノグチ作）以上、平和学習めぐりとはひと味違う、平和大通りの魅力をお届けすることができたのではと思います。参加者16名（山縣紀子）

昭和15年（一九四〇）当時の現平和大通り付近の様子  
横断する赤ライン（加筆）は、現在の平和大通り  
左端の青ライン（加筆）は現太田川放水路  
『最新大広島市街地図』（抜粋） 当館蔵



## 企画展「夏休み おばけの博物館」

令和4年7月16日(土)～8月21日(日)

今年も開催しました「夏休み おばけの博物館」です。7月に入ると問い合わせがあったり、できたばかりのチラシを取りに来られたり、地元の小学生が偵察に来たりしていました。ご期待に添えるものになっているのか、プレッシャーを感じつつ準備を進めました。

あくまでも「おばけの博物館」です(おばけ屋敷ではありません)。キャッチフレーズは、「おばけ(妖怪)を通して、人々の想いや生活に触れるちょっと真面目?!な企画展」です。昨年より少しでも昔の暮らしに興味を持っていただけるように考えました。



囲炉裏端での妖怪の宴会

### 【5つのコーナー】

#### (1) おばけの世界をのぞいてみよう【広島城下町や村人の暮らしとおばけの関わり】

入口に妖怪学習部屋を作り、中には漁村(漁具の展示)、農村(囲炉裏セット)、広島城下町(西国街道)の3つのコーナーを設置し、それぞれの場所に関連する妖怪を展示しました。少し暗くして雰囲気を出しました。動くしかけは、横変化・上下変化の2通りを作りました。昔の生活の中に妖怪がいることを感じてもらえたでしょうか。それどころではなかった人が多かったようです。



本来の場所に戻ってきた「毒酒売りの老婆」

#### (2) 「鬼」とはなにか?昔の人の生活と鬼との関わりについて考えよう



鬼がお出迎え

受付から奥に鬼人形が見えるように配置しました。「鬼」は基本的には妖怪ではじめは今、みなさんが想像するものとは違っていたことを、江戸時代から明治時代に書かれた浮世絵などを展示して紹介し、「鬼」と人々との関わりを説明しました。また猿猴橋町・尾長町の「亥の子」の鬼面も展示しました。

#### (3) 【八木一文さん制作の「つくも神」フィギュア大集合】

今年の新作「キツネの怪談」など新作を加えて妖怪タワーを展示しました。(→八木さんとのインタビューを5頁に掲載しています。)

#### (4) 【不気味な撮影セットの中で、おばけと記念撮影しよう】

昨年とは逆で、外は怖そうなセット、しかし中はアマビエの人形をキラキラの背景で展示しました。恐る恐るカーテンを開けて中をのぞき「なーんだ」と思った子供たちも多かったことでしょう。

#### (5) 【マスキングテープをちぎって大きなおばけの絵を完成させよう!】

子どもたちが何か作って参加できるものを、ということでマスキングテープをちぎり、「巨大れんがールおばけ」の絵に貼ってマステアートを完成させるコーナーを設けました。みんな大喜びでテープを貼っていました。

おかげ様で今年も多くの方にご来館いただき、楽しみながら学習してもらったと思います。最終日は1日で721人もの入館者があり、近年では最高記録になりました。

会期中の来館者 8,739名 (河村直明)



「マステアートコーナー」  
どどん妖怪の絵が完成

## つくも神作家 八木一文さんインタビュー

平成30年度から「夏休み おばけの博物館」に「つくも神フィギュア」を出展していただいている八木さんにお話を伺いました。八木さんのフィギュアは、フィギュアそのものも細やかで素晴らしいのですが、周りのセットもこんなところまで精巧に作っているのか！といつも感心させられています。



つくも神「おひつ」

### Q 郷土資料館に八木さんの作品を展示するきっかけは？

A ミニチュアショップの貸しギャラリースペースで、作品展をさせてもらった際に、郷土資料館の職員さんに見てもらう機会があり、その年の「夏休み おばけの博物館」での展示を誘っていただきました。「猫又<sup>ねこまた</sup>」を並べた展示でしたので、猫好きの職員さんに面白がってもらえたようです。

### Q フィギュアを作り始めたきっかけは？

A もともと模型（フラモデル）が大好きでした。そのうち、説明書どおりに作ることも、自分の想像する場面に人形や模型を組み合わせるジオラマを知り、タミヤ模型の兵隊シリーズや戦車でジオラマで遊びました。

### Q 「つくも神」を作り始めたのは？

A 自然や風景を模型にするのがだんだん楽しくなり、またもともとつくも神（妖怪）も好きだったこともあって、精霊である妖怪をあわせた模型を作るようになりました。作品を友人や知り合いに見せるととても笑って見てくれるので、やる気が出て、今も制作が続いています。



髪切り

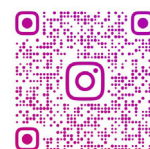
### Q つくも神（妖怪）は、すべてオリジナルですか？

A つくも神は、百鬼夜行絵巻や鳥山石燕、河鍋暁齋など江戸時代の浮世絵師が描く妖怪から、百物語を目指しています。しかし100話作るとバケモノが出るとのことなので、99話を目標にしています。今53作なのでまだまだですね。今回の新作にきつねをテーマにした「きつねの怪談」があります。広島にもきつねの怪談話（おさん狐）があります。また、姫路城<sup>おさかべ</sup>の刑部<sup>ひめ きゅうび</sup>姫や九尾の狐などをジオラマにしてみました。

### Q 最後に一言

A ここ2年間コロナ渦の影響で「つくも神」の展示会ができず物寂しさを感じていました。しかし郷土資料館から声をかけてくれたので、モチベーションを維持できて模型作りを続けられています。妖怪たちも出番をもらえて喜んでいる様子です。

郷土資料館以外での展示があれば、Instagram などでお知らせしています。妖怪好きの方はぜひ



のぞいてみてください。（検索：[pucephalas](#)）

（聞き手 河村直明）



妖怪タワー

## 被爆建物案内 令和4年8月6日(土)

被爆建物でもある郷土資料館では、毎年8月6日の原爆の日に、「被爆建物案内」を実施しています。当日ご来館いただいた方々に、もともと当館の建物が、宇品陸軍糧秣支廠の缶詰工場として建てられたものであることや、当地に立地した背景、すなわち宇品が陸軍の兵站の拠点として非常に重要な役割を担っていたこと、工場の業務内容や、被爆時の状況などを、爆風で折れ曲がった屋根の鉄骨を実際に見ながら解説するというものです。

かつては職員が行っていたのですが、次第にボランティアさん(「ひろしま歴史探検隊」)が、さらにここ数年は例年この時期に行っている博物館実習の実習生が実習の一環として行うようになっていきます。実習が始まる前に話す内容を書いた資料を送っておき、予習したうえでさらに実習中に何度も繰り返しリハーサルを行い、当日に臨みます。わずか5分程度の解説なのですが、実際に話してみると、幅広い年齢層の来館者にわかりやすく伝えるということがとても難しいことであることが実感できたものと思います。ここ数年はコロナの影響で戦中食の試食体験ができていないので、来年はぜひ実施できるような状況になり、実習の内容も充実させてあげたいものです。参加者 398名 (大室謙二)



被爆鉄骨を見上げて解説

### おすすめ収蔵資料 2代目平和の鐘のために作られた「つがい鳩」

広島平和記念都市建設法が公布された昭和24年(1949)、これを記念して作られた「2代目平和の鐘」。今も同じ場所に立ち、その塔柱を鋳物のつがい鳩が飾っています。

この年8月、広島銅合金鋳造会は、焼け跡から集めた被爆した金属を溶かし込んで巨大な鐘を鋳造し、広島市に寄贈されました。基町市民広場(旧市民球場北側付近)で開催された第3回広島平和祭(のちの平和記念式典)で浜井信三市長がこれを鳴らしました。しかし、その後式典で使わ



つがい鳩

れることはなく、平和祭(後の平和記念式典)も平和記念公園に場所を移したことから、長く忘れられた存在となっていました。

鐘の塔柱4か所に飾られていた鋳物の鳩は、南面を除く3か所で失われていました。かつて鋳造会会長だった松村さんのご子息が、平成21年(2009)、サンプルと思われる鋳物鳩一対を広島市公文書館に寄贈されていました。平成27年(2015)に結成された「響け平和の鐘」実行委員会が令和3年の平和の鐘周辺の整備に合わせ、そのサンプルから原型を制作して再現、寄贈を受けた広島市が塔柱に取り付けました。

その後、松村さんの家から、さらに昭和24年当時に作られた控えの鋳物の鳩が見つかり、これが実行委員会を通じて郷土資料館に寄贈されることになったものです。(前野やよい)

## 博物館実習 令和4年7月31日(日)～8月7日(日)

昨年度の学芸員実習は、7名の応募があり、やや窮屈な感じがしたので今年は少なければいいと考えていたのですが、やはり同じく7名の応募があり、受入れることとしました。実習では、例年重点的に取り組んでもらっている「被爆建物案内」のほかに、工作教室の補助、襖の下張文書の取外し、その文書の補修(裏打ち)、館内の環境(温湿度)調査、梱包実習などを行いました。館の規模にしては多い人数を受入れたことで、今年もなかなかきめ細かい対応ができなかったのですが、どの学生



梱包実習

も主体的に考え、動いていたと思います。ただ、誰も学芸員になったり、採用試験を受けたりする予定がないということだったので、こちらとしては少し寂しかったのですが、どの職業につくにせよ、実習で得たものを少しでもいかしてもらえればと思います。(大室謙二)

実習生：愛媛大学、京都女子大学、広島大学、広島市立大学、安田女子大学 計7名

## インターンシップ 令和4年8月・9月

久々に行動制限のない夏休みとなり、インターンシップも時短なしでフルタイムの実習に取り組んでいただきました。(前野やよい)

8月9日(火)～13日(土)5日間 1名

8月24日(水)～28日(日)5日間 1名

9月14日(水)～18日(日)5日間 1名

全て安田女子大学

## 活動報告 令和4年4月～9月

### ■教室・イベント事業

| 日程         | 事業名                             | 参加者数 |
|------------|---------------------------------|------|
| 4月23日(土)   | 教室 糸つむぎ体験                       | 17名  |
| 4月29日(金・祝) | GW お楽しみイベント 昭和レトロ道具体験           | 26名  |
| 4月30日(土)   | GW お楽しみイベント 築111年 糧秣支廠ウォッチング    | 14名  |
| 5月3日(火・祝)  | GW お楽しみイベント 端午の節句 ミニ飾り作り        | 28名  |
| 5月4日(水・祝)  | GW お楽しみイベント 折り染めのうちわ作り          | 43名  |
| 5月5日(木・祝)  | GW お楽しみイベント からくりコイのぼり人形作り       | 30名  |
| 5月21日(土)   | 教室 藍染めTシャツ作り                    | 17名  |
| 6月4日(土)    | フィールドワーク 平和大通り 発見今昔めぐり          | 16名  |
| 6月25日(土)   | 親子教室 ペーパークラフトで路面電車を作ろう          | 13名  |
| 6月26日(日)   | 教室 けん玉教室                        | 16名  |
| 8月6日(土)    | スペシャルイベント 郷土資料館 被爆建物案内          | 398名 |
| 8月28日(日)   | 大人向け教室 藍染めTシャツ作り                | 20名  |
| 9月17日(土)   | 教室 『ごんぎつね』おはなし会と工作「きつねのマジックカード」 | 10名  |
| 9月24日(土)   | 教室 ごんの人形作り                      | 19名  |

■夏休みわくわくイベント

| 日程                       | 事業名               | 参加者数            |
|--------------------------|-------------------|-----------------|
| 7月24日(日)                 | ファイヤーバンドふれあいコンサート | 19名             |
| 7月27日(水)～29日(金)          | おばけストラップ作り        | 148名(46+49+53名) |
| 8月2日(火)～4日(木)            | 藍でマール模様ハンカチ染め体験   | 261名(85+88+88名) |
| 8月5日(金)・<br>9日(火)～10日(水) | ストロー鉄棒人形づくり       | 120名(43+40+37名) |

■館外事業(カッコ内は主催者)

| 日程       | 事業名                               | 参加者数 |
|----------|-----------------------------------|------|
| 5月29日(日) | 広島城メモリアルデー 体験指導「礎石 de メンコ合戦」(広島城) | 524名 |
|          | 紙芝居実演「河童と猿猴の話」(広島城)               | 573名 |



向日葵とネコ

園芸部より

春に正面玄関横の植え込みの一角に綿花、向日葵、秋桜、変化朝顔を植え、初夏から初秋にかけて花が咲きました。

特に、企画展「夏休み おばけの博物館」の時期には向日葵がきれいに咲いて、ちょっとした撮影スポットになっていました。郷土資料館へお立ち寄り際には、正面玄関横にも注目してみてくださいね。(寺田香織)



正面玄関横の植え込み

令和4年度 後期展示紹介

企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし  
令和4年9月3日(土)～11月27日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



■第六管区海上保安本部海洋情報部との共催展示

| 日程                | 展示名           |
|-------------------|---------------|
| 9月3日(土)～11月27日(日) | 広島海—海図に見る広島海— |

企画展 実は広島～こんなご縁がありました(食べもの編)  
令和4年12月10日(土)～令和5年2月26日(日)

全国的に広く知られているものながら、広島発祥であったり、広島が大きなシェアをもっていたりすることが案外知られていないものがよくあります。今回は、このうち食べものの事例を紹介します。



かつて全国随何時の生産量を誇った海苔養殖(南区)  
写真提供 大下隆雄氏

企画展 広島近代化を担った建物たち  
—建造物からたどる広島歴史—  
令和5年3月11日(土)～5月7日(日)

当館の全身である旧宇品陸軍糧秣支廠をはじめ、広島市とその周辺に残る明治～戦前の建造物とそれらが担った役割にスポットをあて、広島市の近代化の歴史やその背景を紹介します。



絵葉書「宇品陸軍糧秣支廠 廠舎  
(大正五年四月)」 当館蔵

ひろしま郷土資料館だより No.104  
令和4年(2022)10月31日発行  
編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館  
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20  
TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772  
URL: http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/



広島市郷土資料館  
HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

アマビエれんガール